現地の動き

# 東牟婁地域の花き生産の現状と問題点

## 1　はじめに

東牟婁地方の花き生産は、海岸部において施設栽培では、宿根カスミソウを中心にカーネーション、ストック、トルコギキョウが、中山間部では千両、シキミ、サカキ、ヒサカキが栽培されています。

## 2　生産の現状

宿根カスミソウは古座町の花き団地が中心で120a、生産量約60万本（平成８年度実績）をあげています。定植は８月下旬から10月上旬で、一度切りと二度切りの組み合わせにより、収穫は10月下旬から５月中旬まで共選共販で行い、全量を名古屋の生花市場へ出荷しています。

ストックは那智勝浦町、古座川町で約30a栽培されており、生産者はベテランばかりで、毎年高品質の切り花を生産しています。

トルコギキョウは平成２年にストックの後作として導入し、６～７月だけの出荷でしたが、最近一部でクーラー育苗による二度切り栽培を行い、収益を上げている農家も出てきています。

千両は水田転作の品目として導入され、古座川町を中心に1.1ha栽培されており、山村の重要な収入源となっています。最近では高齢者のなかにも新たに栽培を始めた人がいます。

シキミは栽培面積が45haと多いものの傾斜地がほとんどで、農家の高齢化から管理の不十分な園地が増えています。また、販売組織も十分でなく地元業者との相対取引がほとんどです。

ヒサカキは従来の山取りから、最近ではシキミからの改植や新たな植栽を行っており、地場販売がほとんどです。

## 3　今後の方向

普及センターでは、海岸部においては施設花きの更なる推進と、古座町花き団地における栽培技術の高位平準化を図り、また、山間地では高齢者が多いため、比較的容易に栽培できる千両の推進や、シキミ、サカキ、ヒサカキの傾斜地から平地への栽培移行を図っていきたいと考えています。

地域全体としては、量が少なくても高品質のものを安定して生産するための基礎技術力の向上を図り、農協を中心にした共販体制の確立を進めていきたいと考えています。

これらの花き生産を推進することにより、地域全体の活性化につなげていきたいと思います。

（東牟婁地域農業改良普及センター）

図１　千両の栽培状況